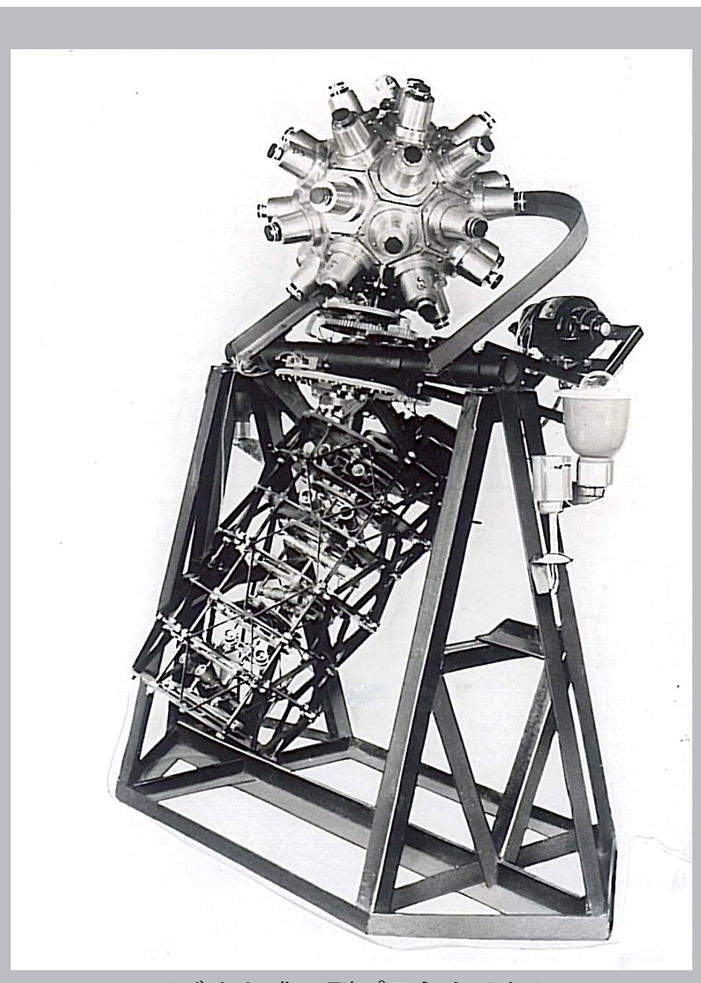
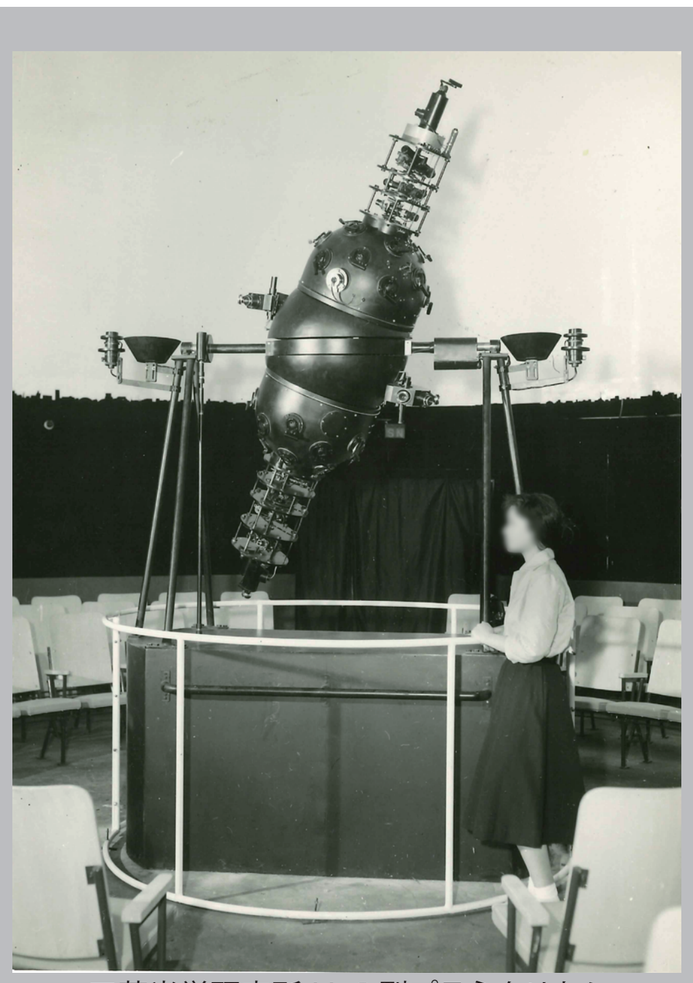
1920
1930
1940
1950
1960
1970
1980
1990
2000
2010
2020

国産プラネタリウムの誕生

1950 年代以降、国産プラネタリウムが誕生していきます。
1958（昭和 33）年に千代田光学精工（現コニカミノルタ）が
ノブオカ式Ⅰ型プラネタリウム、
1959（昭和 34）年には五藤光学研究所が
M-1 型プラネタリウムを発表しました。
人工衛星打ち上げなどによる宇宙ブームもあり
様々な国産プラネタリウムが開発されました。

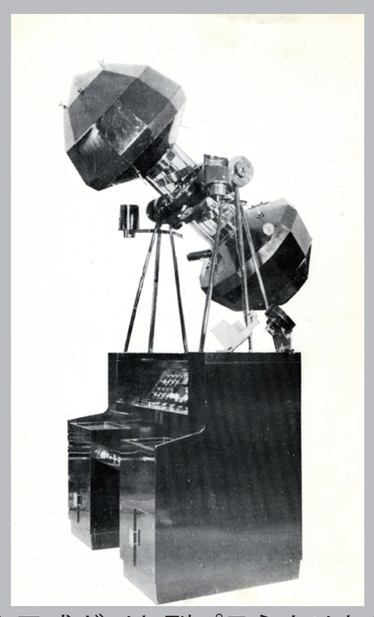


ノブオカ式Ⅰ型プラネタリウム
協力：コニカミノルタプラネタリウム

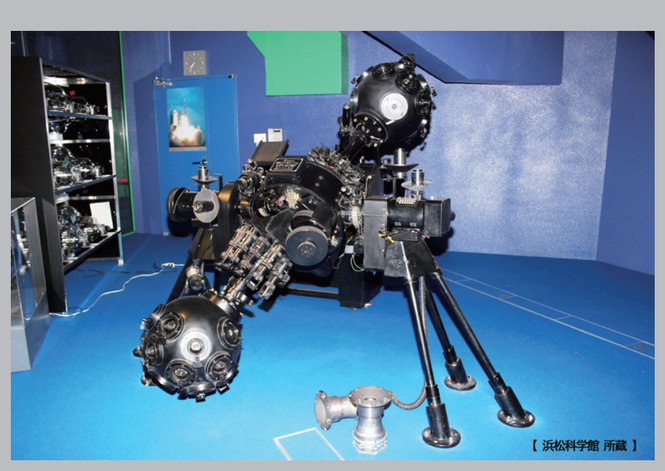


五藤光学研究所 M-Ⅰ型プラネタリウム
協力：五藤光学研究所

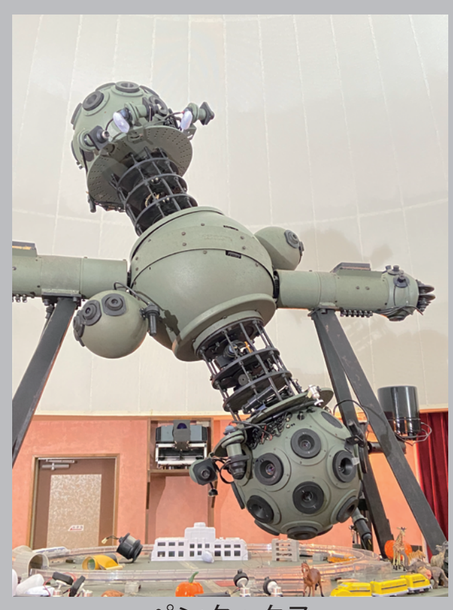
西村式プラネタリウム
協力 : つやま自然のふしぎ館



金子式ダイヤ型プラネタリウム
協力 : 安藤享平（郡山市ふれあい科学館）



興和製プラネタリウム
協力 : 浜松科学館



ペンタックス
協力 : 春日了（プラネターリアム銀河座）